



### 新しい取組みを成功させるための関係者同士の粘り強い調整

- ・利害が異なる多様な主体間がお互い理解をし、協調するためには、課題の共有化、関係者双方の利益を損なわないアイデアの提案、事業主体としての覚悟や率先的な行動などが重要である。これらを調整し、実施に結びつけるための調整には多大な時間と労力を必要とする一方で、それらを得られる実も多いので、他主体の立場を尊重しつつ粘り強く行う覚悟が必要である。

### 知恵袋 (その 18)

交通事業者との度重なる調整を経て、新しいアイデアを実現

～きくちあいのりタクシー～ (熊本県菊池市)

- ・コミュニティバスの郊外への拡大に対するタクシー事業者の懸念から、郊外にタクシーを活用するという新たな発想のもとに、交通事業者との協議が開始された。
- ・運行開始時に、タクシー事業者、バス事業者などとの個々の打合せ、協議会等での出席者に対する配慮など、市の担当者の粘り強い調整が実を結んだ。
- ・協議には、事業者との信頼関係の醸成も含めて長い期間が必要となる(菊池市の場合、数年程度の協議期間を要している。)
- ・現在では、タクシー事業者間の協力体制、行政との協力体制ができています。

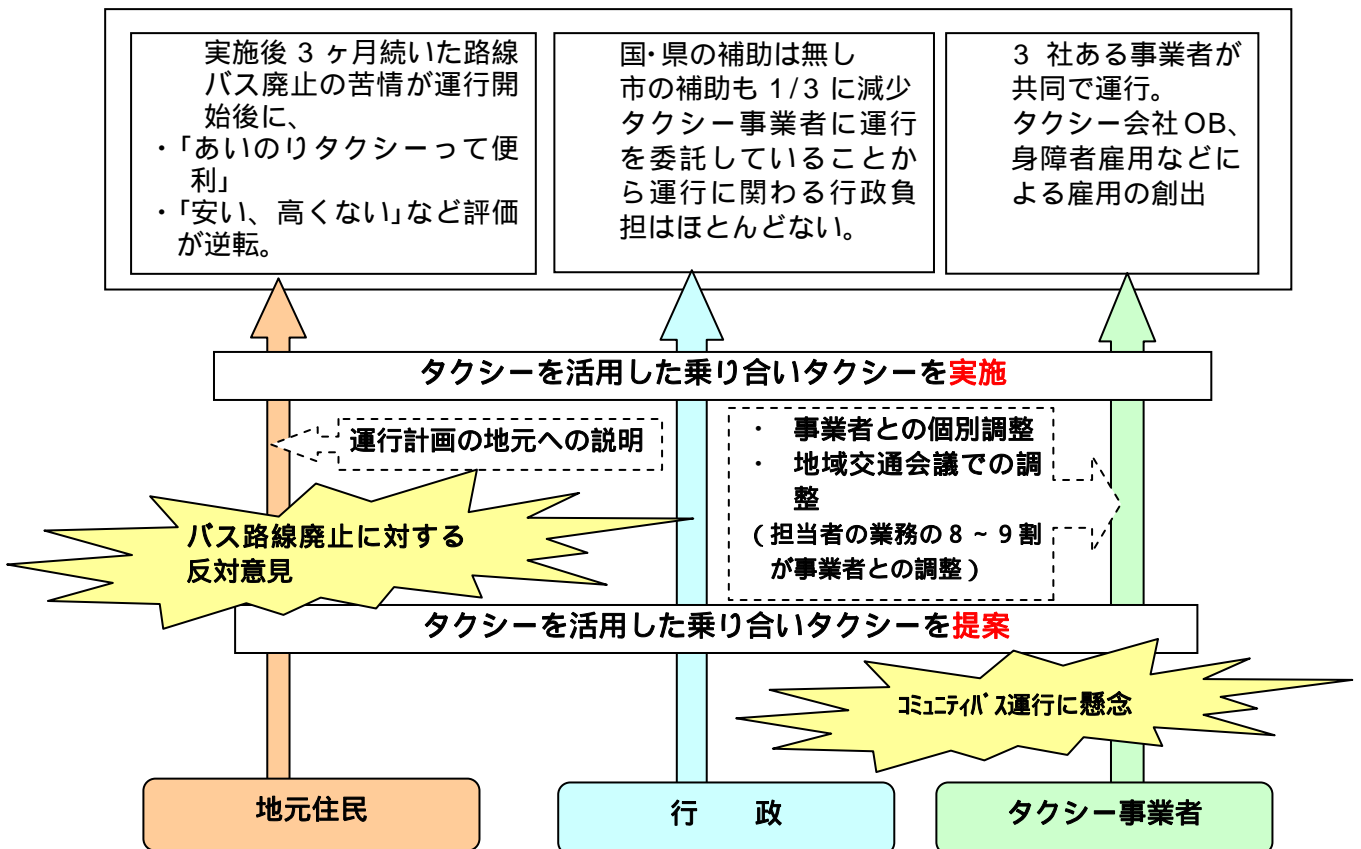


図 3-24 行政と関係者との調整